

文化・環境・教育

ゴールデン・スポーツイヤーズを契機としたスポーツ振興

目指すべき将来像

【20年後にありたい姿（長期ビジョン）】

- 府民の誰もが地域の中でいつでも気軽にスポーツに触れ親しみ、ともに楽しみながら健康で元気に過ごせ、地域の絆が深まった社会を実現しています。
- 京都府ゆかりの多くのトップアスリートが世界で活躍し、府民に夢や希望、感動・勇気を与えています。

【4年後に到達させたい状態（中期計画）】

- 府民の誰もが、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツに親しみ健康で元気な生活を確立し、スポーツを通じた地域の絆づくりを進めています。
- 子どもの頃から体を動かす楽しさや運動・スポーツの愉しさを味わうことにより、生涯にわたって運動・スポーツに親しむことができる健康的な生活習慣を確立しています。
- ジュニア期のアスリート発掘・育成システムを確立するとともに、京都府が誇るトップアスリートや指導者の活躍を支援し、府民と夢や感動を共有しています。
- 青少年の夢やあこがれとなり、府民の誰もが親しみの持てるスポーツ施設の整備を進めています。

- スポーツの重要性を実感していながらも、高齢や仕事・子育ての忙しさ、機会不足等により実践できない人が少なくありません。

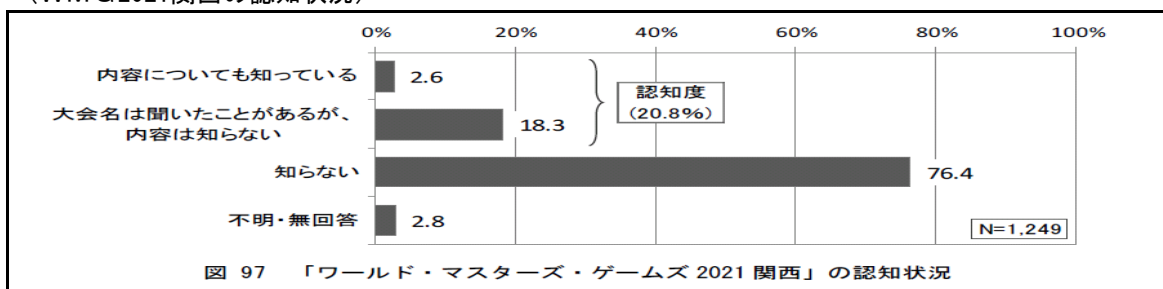
(スポーツの実施頻度)

| | 24年度 | 29年度 |
|-------|-------|-------|
| 週1日以上 | 53.6% | 48.7% |
| 週3日以上 | 26.8% | 24.7% |

- ワールドマスターズゲームズ2021関西では、京都市内で開会式が開催されるほか、同市を含む8市町で12競技が実施されます。

- ワールドマスターズゲームズ2021関西の認知度は、知らないが76.5%と最も多い状況にあります。

(WMG2021関西の認知状況)



- 国際舞台での京都府選手の継続的な活躍を実現させるため、府内の将来有望なジュニア選手をJOC強化選手に繋げる取組を実施しています。

(未来のメダリスト創生事業の取組状況)

| 28年度 | 29年度 |
|-----------|-----------|
| 16競技28名指定 | 14競技28名指定 |

- 京都スタジアム（仮称）の整備が進められています。

施設概要：建築面積(約15,500㎡)、延床面積(33,000㎡)、収容人数(約21,600人)、フィールド(126m×84m)
 進捗状況：平成30年1月に工事着手、平成32年春の開業予定
 運営方法：スタジアムの集客力を最大限発揮するため、民間のノウハウを最大限活用
 その他：クライミング施設等を併設

現状・課題

- ゴールデン・スポーツイヤーズを契機に、市町村やレクリエーション協会等各種団体との連携により、ニュースポーツなど気軽に取り組めるスポーツを普及・定着させ、府民に体を動かす楽しさを知ってもらい、スポーツの実施率向上を図ります。
- 将来のトップアスリートを発掘・育成するとともに、サポートシステムを構築し、ジュニア世代の競技力強化を図ります。
- 建設中の京都スタジアムなどへ、これまで以上に国際大会等を誘致し、府民の皆様にはトップアスリートのプレイを身近に体感していただき、スポーツの「ファン」やスポーツを「はじめる人」を増やします。

対応方策を検討するに当たっての論点

- スポーツをする人を、どのように拡大していくか
- パラリンピックを契機とした、障害者スポーツの振興を、どのようにしていくか
- 将来のトップアスリートを、どのように発掘・育成していくか
- 府民がスポーツを「する」「見る」「支える」環境を、どのように整備していくか

【上記の対応方策に連動して検討すべき数値目標について】

| 数値目標の候補 | 単位 | 現状：2017 |
|-------------------|----|----------------------------|
| 府内のスポーツの実施頻度 | % | 週1日以上 48.7% 週3日以上 24.7% |
| 全京都障害者スポーツ大会の参加者等 | 人 | 8,602 |
| 府立施設への国際大会等の誘致数 | | |
| 京都府スポーツ賞の授与数 | | 388 |